

9. 親水空間を創出します

釧路川流域の自然環境と河川周辺の施設、公園、展望台などを有機的に連携させ、様々な河川・湿原・歴史などに親しめる水辺のネットワークを整備します。

●現状での親水空間の分布

釧路川流域の親水空間としての施設は釧路川河口から弟子屈町まで 11 箇所あります。これらの箇所はカヌー、公園に利用されています。



標茶町 パークゴルフ場



岩保木水門



標茶町 河川敷公園



弟子屈町 水郷公園



JR 橋上流左岸の干潟の状況



ふるさとの川整備事業起点（中央広場付近）

図 2-20 釧路川における親水空間

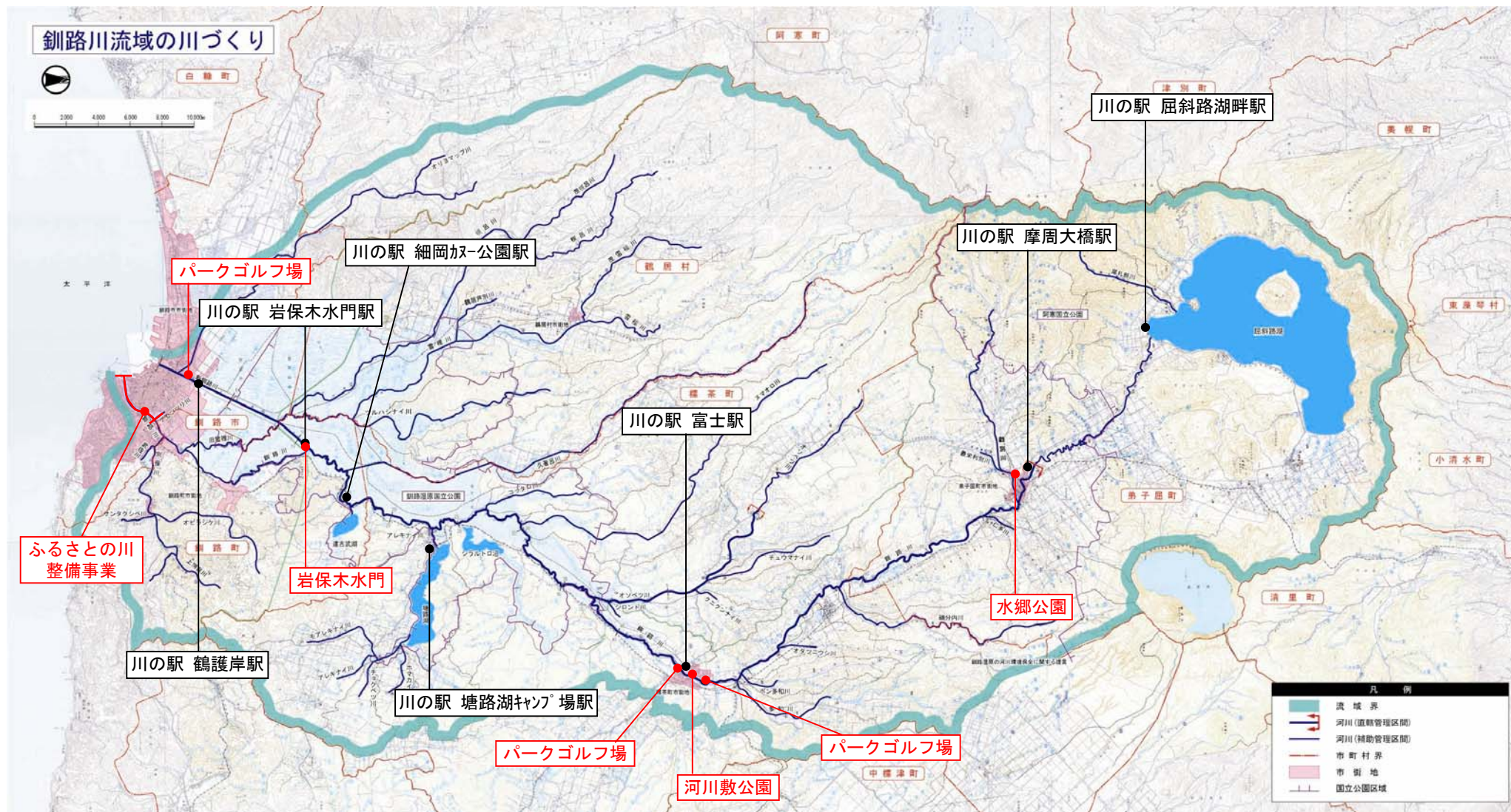


図 2-21 親水空間の位置

●釧路川水系河川環境管理基本計画

平成2年3月に策定された釧路川水系河川環境管理基本計画は「湖沼、湿原の自然を次世代に」「地域発展の核となる水辺空間として」「清流の織りなす自然にふれる水辺として」の3つを基本理念とし、河川空間の適正な保全と創造を図るためのものです。

<ブロック管理方針>

河川空間を流域及び河川の特성에応じてブロック区分し、ブロック毎に管理方針を定めています。

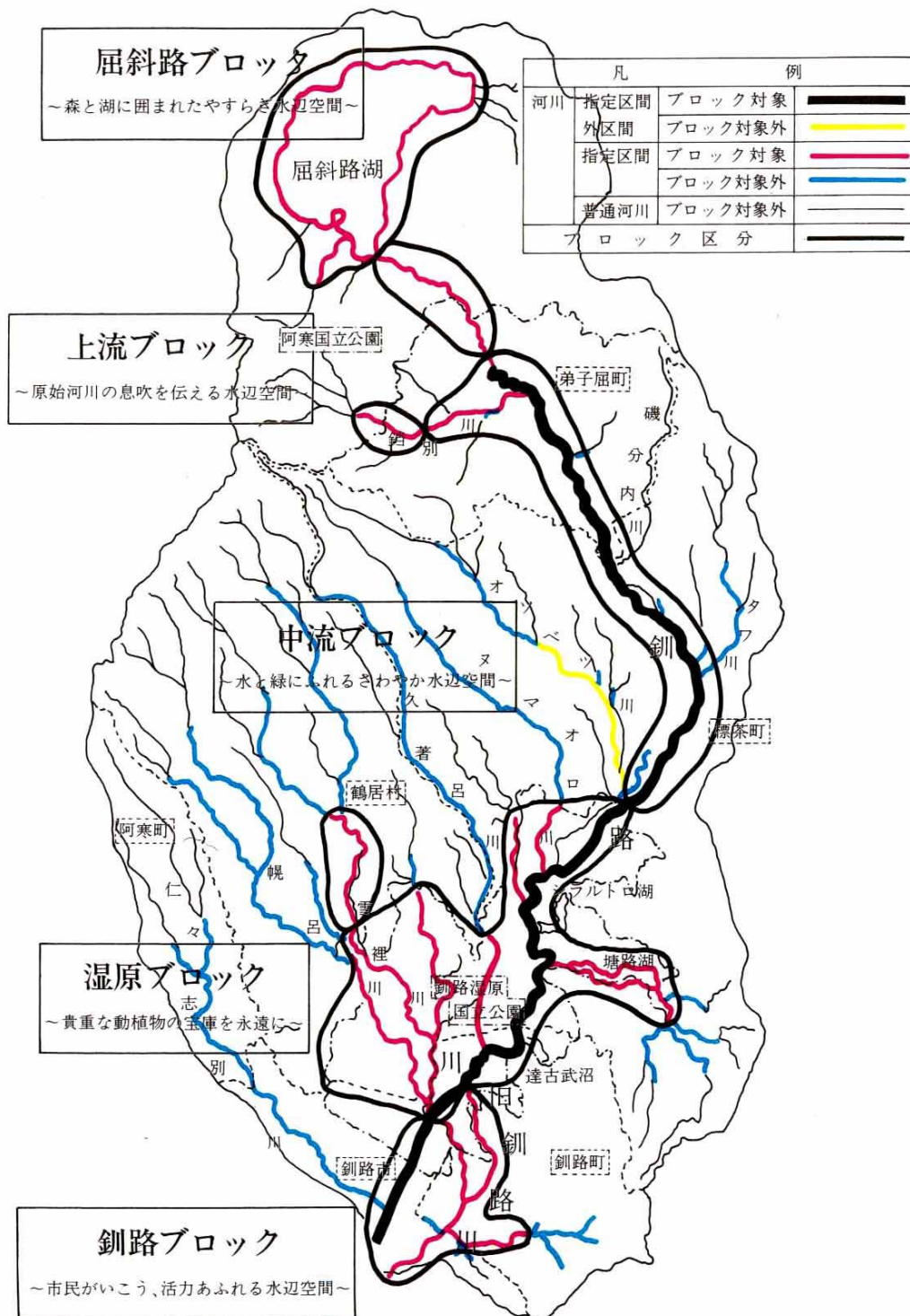


図 2-22 ブロック計画図

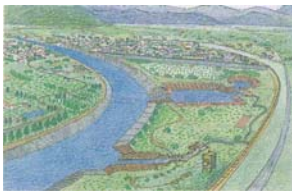
表 2-4 ブロック区分とテーマ

ブロック名	河 川 名	内 容
屈 斜 路 ブロック	屈斜路湖 尾札部川	テーマ”森と湖に囲まれたやすらぎ水辺空間” 阿寒国立公園に含まれている屈斜路湖は、豊かな自然環境を有し、ハクチョウ等の鳥類を始め豊かかつ貴重な動植物が生息している。また、湖面はボート、ウィンドサーフィン等アウトドアスポーツを楽しむ場所として、湖岸にはキャンプ場、遊歩道が整備され露天の温泉もわきだし、観光客など多くの人々に憩いの場として親しまれている。 したがって、”森と湖に囲まれたやすらぎ水辺空間”をテーマに豊富な動植物、雄大な自然環境を保全しつつ、広大な水面、緑豊かな湖畔の自然を多くの人々が楽しめるよう管理する。
上 流 ブロック	釧路川 當別川	テーマ”原始河川の息吹を伝える水辺空間” 森林地帯、酪農地帯を流下し丘陵地帯に至るこの区間の河川は、ほとんど未改修の自然河川であり蛇行しながら穏やかに流れる原始河川の様相をいたる所に残している。このような河川空間には、河畔林が発達し豊かかつ貴重な動植物が生きており、この豊かな自然を満喫するためにカヌーで川下りする人も多い。 したがって、”原始河川の息吹を伝える水辺空間”をテーマに、人々が自然と静流にふれ、原始の流れを体感できるような良好な河川環境を保全する。
中 流 ブロック	釧路川 鑑別川 茂雪裡川 雪裡川	テーマ”水と緑にふれるさわやか水辺空間” 当ブロックは、酪農を中心とした農耕地帯を流下して釧路湿原に至る区間であり、川沿いは周辺の放牧地と調和したのどかな河川景観を有しており、広い高水敷は採草放牧地として活用されている。市街地を流下する河川空間は、健康と安らぎの空間として周辺地域を含めた整備が進められ、地域住民に広く利用されているとともに、各種イベントが開催されるなど町おこし運動の場ともなっている。また、弟子屈町は温泉の町として知られ、川沿いに建ちならぶ宿からみる河川空間は、訪れる観光客にうるおいとやすらぎを与えている。 したがって、”水と緑にふれるさわやか水辺空間”をテーマに、のどかな景観や豊かな自然に親しめる水辺空間および採草放牧地としての活用を図るとともに、市街地に隣接する区間では町づくり計画等に配慮してイベント、レクリエーション等が行える水辺空間を創造する。
湿 原 ブロック	釧路川 久著呂川 雪裡川 幌呂川 アレキナイ川 ツルハシナイ川 鶴居芦別川 チョクベツ川 ホマカイ川 モアレキナイ川 コツタロ川 ヌマオロ川 オソベツ川	テーマ”貴重な動植物の宝庫を永遠に” 当ブロックは、国際的にも釧路湿原を流下する区間であり、この広大な湿原内は水鳥の生息地保護を目的としたラムサール条約の指定湿原ともなっている。 したがって、”貴重な動植物の宝庫を永遠に”をテーマに、かけがえのない釧路湿原の豊かな自然を広く享受できるよう、自然環境を保全する。
釧 路 ブロック	釧路川 旧釧路川 旧雪裡川 別保川 アセツツリ川	テーマ”市民がいこう、活力あふれる水辺空間” 大正 9 年の大洪水を契機に新水路となった釧路川は、釧路市の中心部を洪水の常襲地帯から開放するとともに、高水敷は整備が進み現在では市民の憩いの場となり、スポーツ、イベント広場等として多くの人々に利用されている。また、歴史を持つ岩保木水門から分脈された旧釧路川沿いでは、幣舞橋周辺を中心に地域活性化を目指した計画が展開がされており、ウォータフロントとしての河川空間が重要な役割を果たしている。 したがって、”市民がいこう、活力あふれる水辺空間”をテーマに、人々のスポーツ・レクリエーション活動の場として、また、市民のいこいとやすらぎの場として活用を図るとともに幣舞橋周辺ではその情緒ゆたかな河川環境を活かし、うるおいのある水辺となるよう管理する。 さらに、河川を軸とした広域的な親水レクリエーション空間となるよう、水辺をサイクリングロード等で結び有機的活用を図る。

<水辺ネットワーク整備計画>

釧路川の有する水と緑の特性を生かし、釧路川及びその支川を軸として、河川周辺に存在する歴史・文化施設、公園・緑地、展望台などを有機的に連携させ変化に富んだ河川景観、水の流れ、多様な自然、歴史などに親しめる水辺のネットワークを整備します。

表 2-5 水辺のネットワークの整備方針

場 所	テーマ	整備方針
「釧路地区」～幣舞橋～春採湖～岩保木水門～大観望～達古武沼～釧路湿原	湿原をわたる風と幣舞橋に開拓の歴史を想うネットワーク 	釧路都市圏近郊の貴重かつ豊かな自然環境を、胸一杯味わいリフレッシュできるよう釧路川河川緑地、春採湖など周辺の公園・文化的施設、大観望等の展望台と連携を図りながらサイクリングロード、散策路、休憩広場、案内板等を整備し、“湿原をわたる風と幣舞橋に開拓の歴史を想うネットワーク”づくりを行う。
開運橋下流～鑑別川合流点	川面に映る牧場の緑に心和む水辺のネットワーク 	カヌー等で清流を下りながら、のどかな酪農地帯を流れる釧路川の豊かな自然、動植物にふれあえるよう弟子屈地区、標茶地区に引き込み護岸、緩傾斜護岸等を整備すると共に、河岸に自然護岸を整備し休憩地点などとして活用し“川面に映る牧場の緑に心和む水辺のネットワーク”づくりを行う。
鑑別川合流点～弟子屈町水郷公園	湯にひたり、川面をみつめる水辺のネットワーク 	弟子屈温泉を訪れた人々が、都会の喧騒を逃れ釧路川の豊かな河川環境にふれ、のんびりと心身を開放できるよう堤防天端等を活用したサイクリングロード、散策路を整備するとともに案内板等を設置して“湯にひたり、川面をみつめる水辺のネットワーク”づくりを行う。
茂雪裡橋～鶴居橋	遊びと潤いの水辺ネットワーク 	水と豊かな緑にふれ、自然を学び遊ぶ体験と学習の場としての活用を図れるよう、堤防天端等を利用した散策路等を整備するとともに案内板等の設置を行い“遊びと潤いの水辺ネットワーク”づくりを行う。

10. 水環境の保全・改善に向けて、対策を促進していきます

中、上流域において悪化の傾向が認められる項目（BOD、大腸菌群数、栄養塩類等）について調査、検討し、水質の保全・改善に努めます。また、流域の開発や社会活動等の産業活動に伴う河川水質への影響については、関係機関との調整・連携を取りながら対策の促進を図ります。

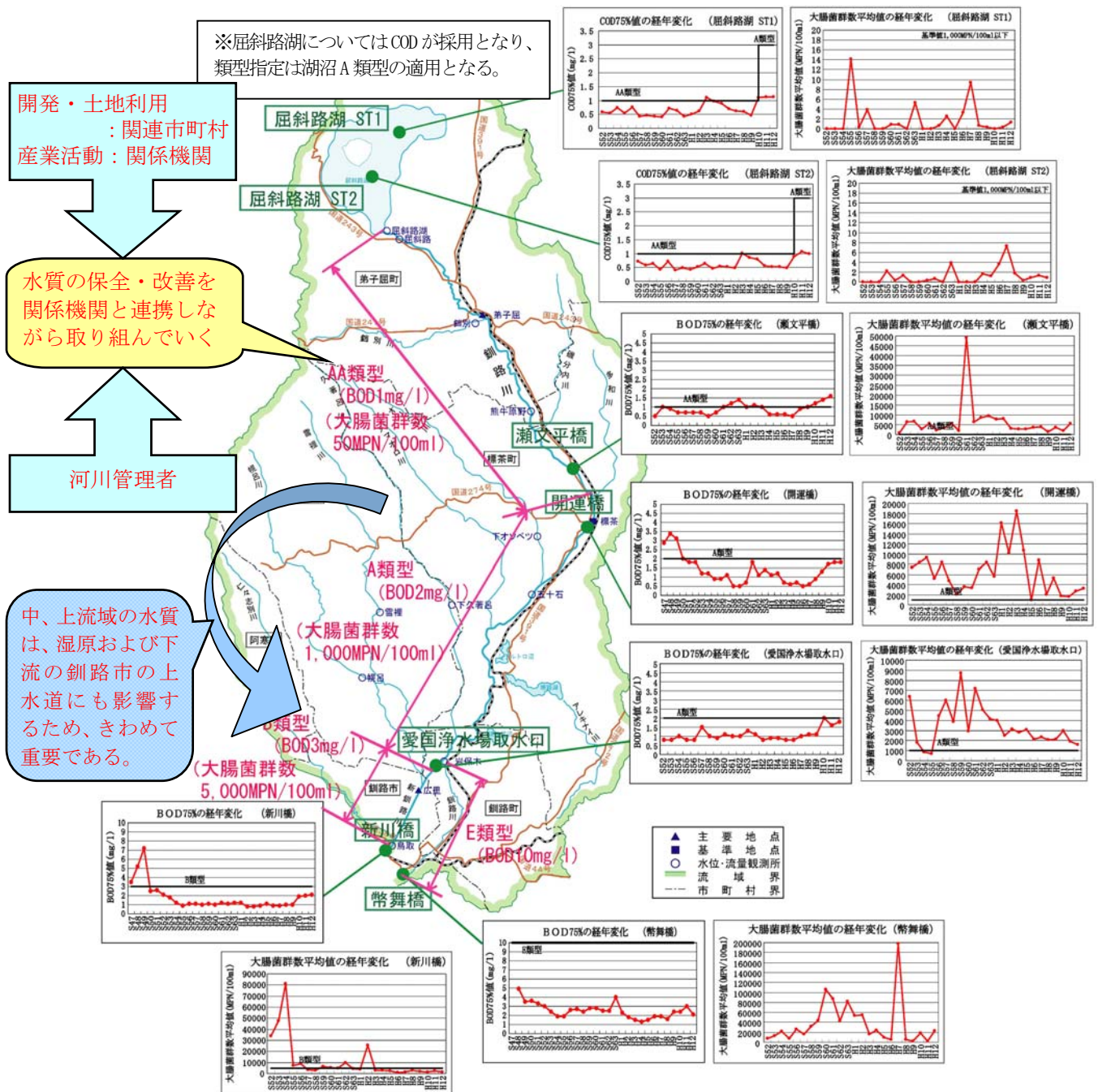


図 2-23 釧路川水系水質環境基準地点及び類型指定区間と水質 (BOD、COD75%値、大腸菌群数) の経年変化

●水環境の現状

湿原流域の水質について、入手可能な最も古い測定結果であるS57年前後のものから、平成10年までの値を用いて、窒素・リン負荷量の推移を図2-24に示します。観測地点である瀬文平橋は、湿原上流端に位置し、平水時の値を利用しました。

なお、網走川(網走湖上流の治水橋)、十勝川(最下流の茂岩橋)で同じく窒素・リン負荷量の推移を経年的に比較したものをP. 2-38の参考資料として記載しています。

平水時の釧路川本川はS57年前後に比べてH7年頃には窒素の負荷量は増加傾向にあり(図2-24参照)、約1.5倍になっています。リンの負荷量はやや増加減少を繰り返しますが、ほぼ減少傾向にあり、S57年からH10年までに3/4になっています(図2-24)。しかし、図2-25に示すように、釧路川の支川である久著呂川においては洪水時に窒素が8.0倍、リンが11.6倍に増加し、大きな負荷量となっていることがわかります。

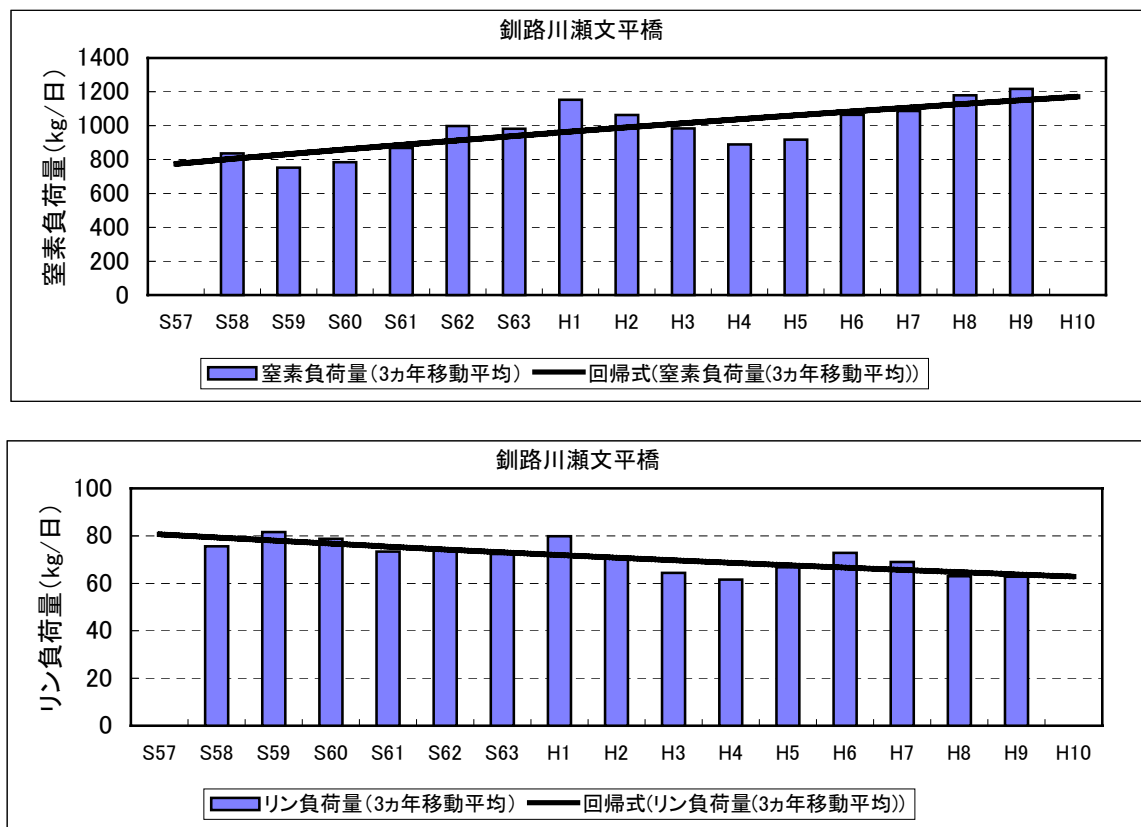


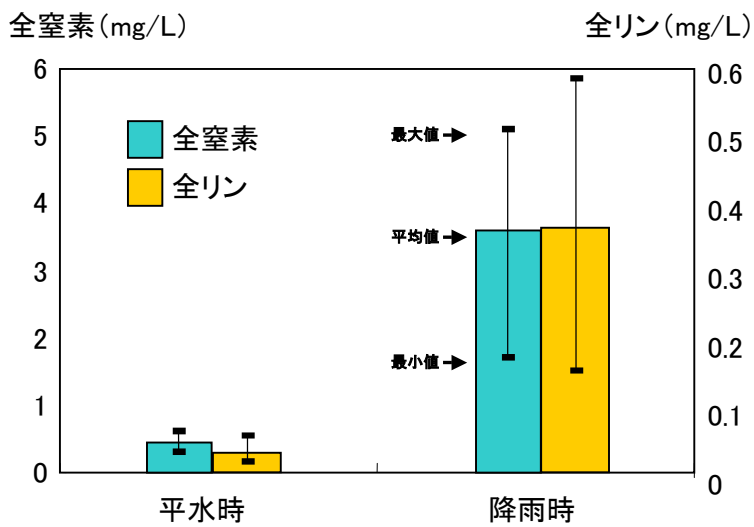
図 2-24 釧路川における窒素・リン負荷量の推移(平水時)



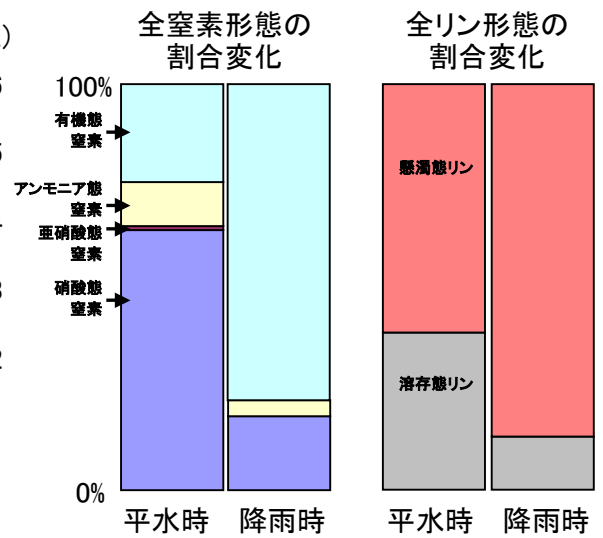
【出水時の河川の様子（境橋）】



【表面流去水の発生状況】



【栄養塩濃度の比較】



【栄養塩形態の割合】

図 2-25 久著呂川(鶴見橋)の栄養塩類濃度